

海交流

年間を通してリズム交流や鮭の遡上と一緒に見に行くなどの計画をしていました。6月にかもめ保育園、風の子保育園、菊水上町保育園の三園でリズム交流をしたことで、自分たちと同じ年長の姿から刺激をもらい、また一緒に遊びたいと話していた子ども達でした。

かもめ保育園が7月には海での生活が始まる事から8月に海遊びに行くことにしました。

子ども達は、かもめ保育園の友だちに会えることや海で遊ぶ事を楽しみに向かいましたが、毎日海で遊ぶかもめ保育園のダイナミックに遊ぶ姿を見て初めは戸惑いを見せても、すぐに「やりたい」と海の中に立てられた台の上からジャンプする列に並びだし繰り返し遊ぶ事で、少し怖いと思っていた気持ちが楽しさに変わり全員が挑戦し遊ぶ事が出来ました。

海遊びを終えた子ども達は、「海遊びすごく楽しかった」「また遊びに行きたい」と言葉にしてきたので、2回目の海遊びに行きました。

前回の経験から遊びに使うものは自分たちで運び、かもめ保育園の友だちと一緒にボードに乗り、エビ取りも教えてもらい、集団の遊びでは砂浜から海まで走り泳ぐリレーをするなど、たくさんの交流を楽しむことができました。〈菊水上町保育園〉

2024年度 北海道地区ニュース 3月発行



いっせいのーで！ジャンプ！



生きた鮭に触る



余市教育福祉村 丘が気持ち良い



砂浜～海中へ対抗リレー



エビを取ってパクリッ



今年は豊作栗拾い



全員が回った！！



子どもの歌が響き渡る

余市での交流

10月10日、サケの遡上の見学と福祉村での栗拾いをしました。余市川にサケが数匹しか上がってなくて、新聞などで、不漁と聞いていたのですが、本当だったのだと実感。トラックにサケをクレーンで釣り上げてトラックに移動しているところをみることは、できませんでしたが、漁協の生けすで、サケに触り、サケの雄雌のちがいなどをおしえてもらったりすることができました。子どもたちは、サケを持ち上げ、触ることで、命を感じる事ができました。また、福祉村では、リズム交流で仲良くなったお友達と栗拾いをして、一緒にお弁当を食べて、秋の一日を楽しみました。〈風の子保育園〉

広木克行先生職員研修会・保護者講演会(かもめ保育園 10月19、20日)

1日目は、広木先生にかもめ保育園の子どもたちの絵を見て職員研修会を開催。風の子、菊水上町保育園の職員も参加しました。先生の子どもの絵から感じた事を話す言葉、絵を見る力の素晴らしさに驚きを隠せませんでした。子どもの様子を話し課題や気になる点だけではなく、子どもの発達節目を迎えるポイント、保護者とのかわりなど、絵には子どものすべてが映し出されるという事をさらに深く感じさせられる研修でした。

2日目は、「子どもが育つ条件」—子どもの自立、親の子育て—と題した講演会を開催。保護者、職員、関係者100名を超える参加者が集いました。毎回ですが、父親の参加者の多さに先生も驚いていました。子どもの送り迎えなど父の送迎が多く子育てに関わる機会や学ぶ機会が多いことはとても良い文化がかもめ保育園に根付いていると感じています。

講演会の内容では「甘えと、遊びは子どもの主食」ただし甘えと、甘やかしは全然違うという言葉に保護者方のみならず保育士も今の関わりを見直すきっかけとなり、後日クラス懇談ではこの話で持ち切りになり、子どもとのかわりの学びを深めることができました。

「子どもは育ちなおしも名人、大人も育ちなおすことができる」「自立とは、1人で何でもできることではなく、支えあって生きること。助けを求める勇気を持つこと」など子育てに悩む保護者に終始寄り添う内容となりました。中には、「先生の話聞くだけで、落ちつく」という感想も出ていました。一方では、現在の子どもの取り巻く現状の大変さ、日本の現状と世界との違いなど情勢の話も聞けて視野の広がりの大切さを感じました。明日から子育て・保育の励みとなる学びの多い2日間となりました。〈かもめ保育園〉

交流保育リズム

2月21日(金)かもめ保育園で最後の交流保育を行いました。春や夏の交流では挨拶もままならない状態に驚かされ悩みました。今回は会ってすぐさま「おはよう！」「コマやろう！」と声を掛け合い始まる前から白熱ぶりです。交流を重ねる事、各園で課題での成長がここまで子どもたちを変化させるんだと実感しました。最後には、年長児37名全員が一斉にコマが回った時「やった、やった」「全員回った」と喜びの声、抱き合う姿を見て交流の良さを実感しました。〈かもめ保育園〉